

やさしさを

モットーに



全日仏青担当委員長

柳本 晃教

“東大寺 奈良の大仏さん”―右手をあげ、左手は膝の上のポーズ―

日本人なら多くの人が、修学旅行や観光で訪れ、どっしりと壮大なお姿を拝し、息をのんだ人も多いと思います。その東大寺大仏殿において、全日本仏教青年会が主催し、仏法興隆および世界平和を願う「花まつり干僧法要」を開催してきました。この法要は、30年ほど前から

全国・各加盟宗派からの多くの僧侶が参集し、宗派の垣根を超え、永く祈りを捧げてまいりました。

しかし、近畿圏でのコロナ感染拡大を鑑みて、今年度は中止となり、残念でなりません。

大仏さんの特徴的なポーズにはこんなメッセージが込められています。右手は、「皆さんの恐れを取りましょう」という形で、大衆の不安を受け止め、安らぎを

## コロナ禍。相手の不安な感情を受け止めたい

与える施無畏印を表します。左手は、「願いをかなえてさしあげましょう」という、与願印よがんいんを表しており、右手が表す施無畏せむいとは無畏むい施せとも言い、実は「布施」の心の1つであります。

「布施」と聞くと、お寺さんへの供養である「お布施」のことかと思いますが、ここでは相手の不安を受け止め、やさしさを感じていただくことも、大切な「布施」の1つなのです。

「布施」の語源は、雨の日に布1枚でも施して、役に立ててもらおうとする気持ちから成り立ちます。「雨で濡れた体に布1枚では役に立たないが、大切なのは相手を思う心である」と。

与える経済的な問題と、心の問題が取り上げられています。見えないウイルス、知らずに感染してしまう怖さ。自粛ストレスや不安を感じている人がいれば、まずは相手の不安な感情を受け止めて、相手が安心するような接し方が求められているのではないのでしょうか。

コロナ時代であるからこそ、心に寄り添う僧侶としての役割は多大。言っは易く、行方は難し。自分らしい振る舞い方で、自然とやさしさを感じていただけるような存在であり続けたいです。

※ ※

最近では、コロナ定臨床宗教師

柳本晃教11昭和59年生まれ。和歌山県法華寺住職。和歌山日蓮宗青年会会長。認